

育成を目指す資質・能力

四角形の内角の和の求め方について、四角形を三角形に分けて考える活動を通して、演繹的に説明できるようにする。

ICT活用のポイント

児童の考え方を電子黒板に一斉に提示し、解決の方法によって分類・整理したり、類似した考え方を学習者用端末に送信し、共通点や相違点を視点に比較・検討したりすることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。

【学習を把握し、めあてを設定する】
解決の見通しをもつ。

四角形の4つの角の和は何度になるか、説明しよう。

【めあてを追究する】

- 個別に追究し、それぞれの考え方を全体で共有する。
- 3つの考え方を、図や式の違いに着目して比較・検討する。

【学習をまとめる】

- 四角形を三角形に分けて考える。
- 四角形の4つの角の和は 360° になる。

【学習を振り返り、適用問題に取り組む】

- 他の四角形も4つの角の和が 360° になるか、ペアで説明する。

事例の概要

- デジタルワークシートに、四角形の4つの角の和の求め方を、図、式、言葉などを用いて記入し、学習支援ソフトを通して提出する。
- 学習支援ソフトにより、同じ考え方をグループ分けしたり、図や式の違いに着目して比較・検討したりする。

事例におけるICT活用場面①

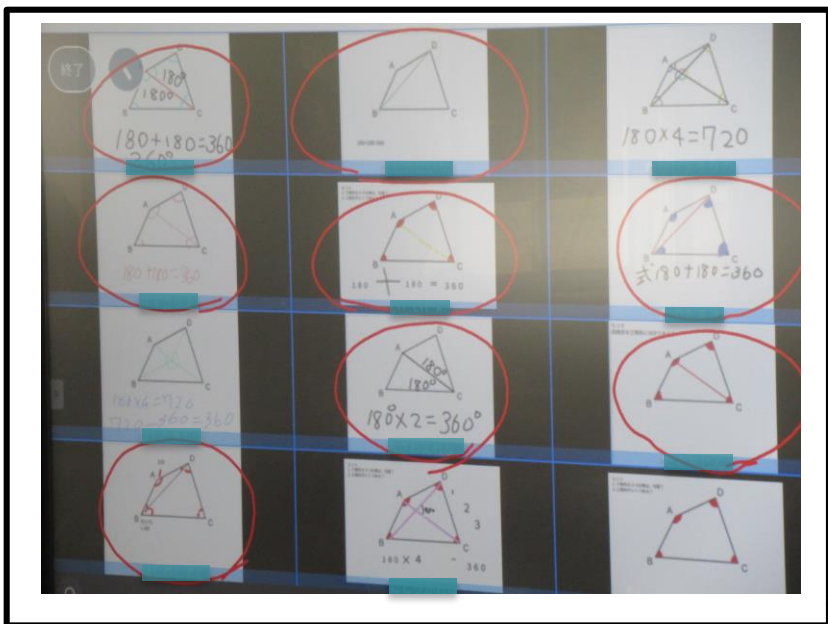
- 児童が記入したデジタルワークシートを、学習支援ソフトを通して提出させ、図や式を基に説明させることで全体で共有する。
- 児童の考え方を一斉に提示し、電子黒板に映し出されている各児童の考え方に印をつけることで、解決の方法を分類・整理する。

事例におけるICT活用場面②

- 学習支援ソフトを通して、2つの考え方を学習者用端末に送信し、考え方の共通点や相違点について話し合わせる。
- 教師が、3つの考え方の共通点を引き出し、学習者用端末にキーワードを記入させることで、学びを視覚化してまとめにつなげる。

【算数・小5・「図形の角を調べよう」②】

【事例におけるICT活用の場面①】



考えを全体で共有する場面では、児童が記入したデジタルワークシートを学習支援ソフトに提出させ、互いの考え方を視覚的に共有した。

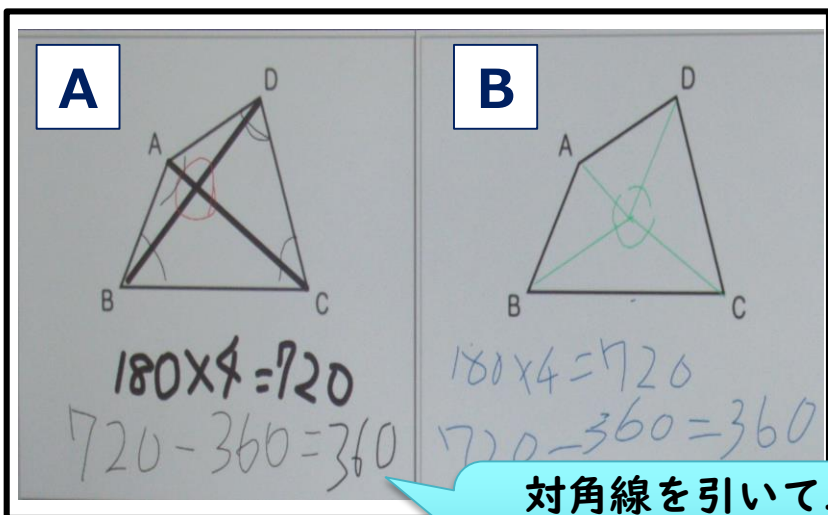
児童の考え方を一斉に提示することで、全員が参加して結果を確認したり、電子黒板に映し出されている各児童の考え方に印を付け、解決の方法によって分類・整理したりしていた。

その後、教師は、意図的に児童を指名し、図や式を基に説明させたり、式を提示し、どんな分け方をしたのか考えさせたりすることで、全員で意見交換することができた。

このように、児童は、より短時間かつ一目で多様な考え方に触れることができ、考えを広げることができた。

各児童の考え方に印を付け、
解決の方法によって分類している。

【事例におけるICT活用の場面②】



学習支援ソフトを通して、2つの方法を学習者用端末に送信し、考え方の共通点や相違点について考えさせた。類似した考え方を比較・検討することによって、児童はBの考え方のよさを実感することができた。

また、教師が、本時で取り上げた3つの考え方の共通点を引き出し、キーワードを記入させたり、図を囲んだりすることで、学びを視覚化してまとめにつなげさせていた。

対角線を引いて三角形に分ける方法と、図形内にある1点から頂点に直線を引き三角形に分ける方法とを比較・検討している。

【活用したソフトや機能】
・学習支援ソフト